

盤洲干潟(木更津海岸)の観察

報告者：大野幸正（活き活き東京湾研究会）

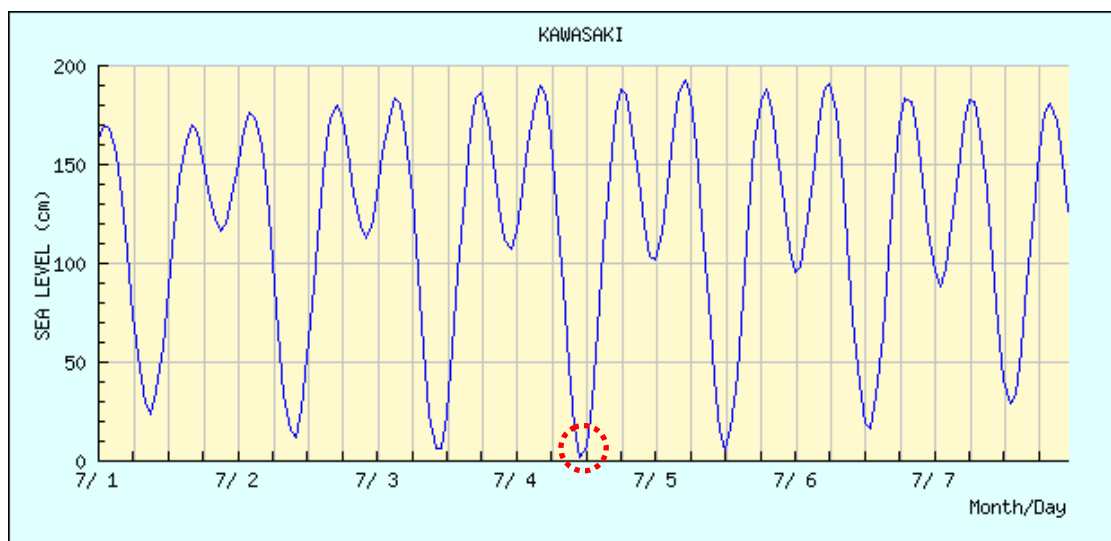
日時：2012年7月4日（水）9:00-12:10

場所：盤洲干潟（木更津漁協の潮干狩り場）

観察したのは木更津漁協が運営する潮干狩り場で、下図の赤い点線の範囲内です。かなり潮が引く日を選んだので、岸から沖方向に900m程度歩きながら、所々で熊手、手網、スコップを用いて底生動物の状況を確認しました。最干潮は11:16（推算潮位1cm）で、晴れて穏やかでした。



観察の範囲



推算潮位（気象庁潮位表：東京） 2012年7月4日 11:16(1cm)

【潮干狩り場】

木更津駅から海に向かって真っすぐの下ると木更津港に着きます。東京湾横断道路が出来るまでは、ここと川崎港を行き来するカーフェリーが就航いたしておりました。目指す潮干狩り場はこの港の北側にあり、フェリー航路を越えて行くために大きな赤い橋を徒歩で渡ります。

11時過ぎが干潮時刻でしたが、この日は風が弱くて上げ潮の入りが遅かったようです。帰りがけの12:35に撮った写真でもかなり潮が引いておりました。

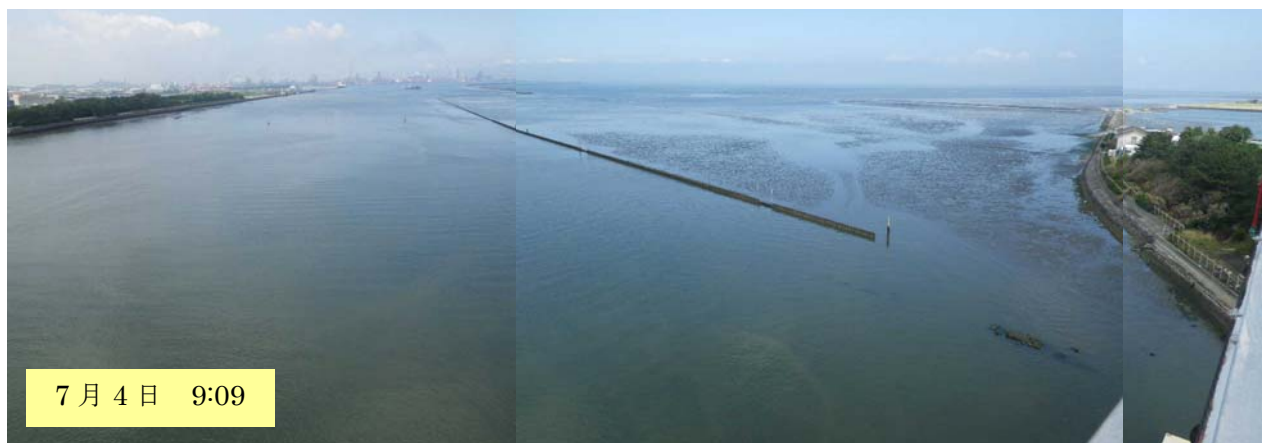


写真1 干潟の状況 (赤い橋の上から)

【潮干狩り場】

潮干狩り場は、平日だったせいか、潮干狩り客が少ない状況でした。潮干狩り場の入り口には、アナアオサが少々打ち寄せられておりました。



写真2 潮干狩り場入口の状況

☆生物の出現状況

【岸寄り、護岸付近】 貝類、多毛類が見当たらず、カニ穴もほとんど見られません。



写真3 岸寄り、護岸付近の状況

【潮干狩り場内の岸寄り】

アサリがいました。よく見ると、アサリ、バカガイ等の稚貝もいました。稚貝がいるということは、東京湾内で産卵されたアサリの幼生がこの場に浮遊着生して育っているということです。右側に見える巻貝はアラムシロガイです。



写真4 潮干狩り場内の岸寄りの状況

【潮干狩り場内の中ほど】

岸寄りよりもアサリの量が増えました。稚貝もいます。



写真5 潮干狩り場内の中ほどの状況

【潮干狩り場内の沖寄り】

潮干狩り場では岸から 400-500m のあたりに竹竿が列状に打ち込んであります。

漁業組合が潮干狩り場として海底耕運（機械で干潟を耕して良好な砂泥状態に保つ）やアサリの巻き出し（潮干狩り場にアサリを供給する）をしている範囲を示しているように思われました。このあたりはアサリがかなりいて、シオフキガイが少々でした。潮干狩り場内では、マハゼ、エビジャコ、オサガニ類を見かけました。



写真 6 潮干狩り場内の沖寄りの状況

【潮干狩り場よりも沖側】

沖に行くほど、泥の割合が減少して砂地になるようです。潮干狩り場の沖では、コアマモの繁茂が随所に見られました。コメツキガニがユーモラスな姿を見せてくれました。

スコップで掘っていて、ようやくマテガイを見つけました。小ぶりなのが1個体でひとこりに比べて少ないと思いました。アサリは潮干狩り場内よりは減少しました。キサゴ(巻貝)が目立つようになりました。



写真7 潮干狩り場よりも沖側の状況

【干潟の縁辺部（干潟の水際は岸から約 900m）】

干潟の縁辺部は沖からの波の当たりが強い場所です。地盤がやや高い所（干出）と低い所（潮だまり）が汀線(波打ち際)と平行方向に交互に現れて、粗い目の貝殻交じりの砂地となります。通常、このあたりではアサリの代わりにバカガイが多く見られます。今日は最も潮が引く日でしたので、この干潟の縁辺部を見に来るのを楽しみにしておりました。

このあたりの砂地は、かなり貝殻が混じっており、スコップをさしても貝殻に邪魔されて刃先が砂地に入りにくいことがありました。このようなところでは貝類が地に潜ることが困難です。期待したバカガイは全くと言っていいほどいませんでした。後で地元の漁師さんに聞くと、バカガイはここよりも北側で獲れるとのことでした。スゴカイイソメという多毛類（貝殻を付けた棲管を砂面から 5cm 位突き出している）がほとんど見られないのも印象に残りました。

木更津航路がすぐ南側にあるので、干潟から航路への土砂流入を防止する土留堤防が潮流や波の当たり具合に影響して、干潟縁辺部の地形・地質に変化を生じているのかもしれない。



波打ち際には、アマモの群落がゆらゆらと揺ら揺らしていました。



写真 8 干潟の縁辺部の状況

【その他、見つけた生き物たち】



(正体不明)



オサガニ類



シオフキガイ 1 個体 (他はアサリ)



砂茶わん (ツメタガイの卵かい)



クロムシの卵かい (左上) と糞 (右)



クロムシ (タマシキゴカイ)

コアマモ





バカガイ（二枚貝）とアカニシ（巻貝）



サルボウガイ（アカガイの仲間）



トリガイ



イシガニ



タツノオトシゴ



アカエイ（干潟縁部の水中）